



展覧会会期

2014年4月12日[土]～6月29日[日]

菊池寛実記念 智美術館

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 4-1-35 西久保ビル B1F

TEL03-5733-5131 FAX03-5733-5132 <http://www.musee-tomo.or.jp>

プレスレビューのご案内は7頁をご覧ください。

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、私ども菊池寛実記念 智美術館の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。当館にて4月12日より開催する展覧会、「藤本能道 色絵に生きる」展のご案内をさせていただきます。

智美術館は現代陶芸のコレクターで美術館創立者の菊池智が、長年にわたり蒐集してきたコレクションを基に、2003年4月に東京・虎ノ門に開館しましたが、コレクションの中で質量ともに最も重要な位置を占めるのが、藤本能道よし（重要無形文化財「色絵磁器」保持者、1919～1992年）の作品群です。当館ではこれまで二度の企画展で、菊池コレクション収蔵の藤本能道作品をご紹介しますまいりました。一度目の2004年には、藤本の初期の色絵磁器では代表作といえる1976年作の昭和天皇に捧げたディナーセット・230ピース余を中心に展示を行いました。また、2009年には作家の最晩年の作品に焦点を当てた、「藤本能道 命の残照のなかで」展を開催いたしました。5年ぶり、3度目の作品公開となる本展では、色絵の初期から晩年への流れを辿りつつ、改めて藤本能道の色絵表現の広がりと深まりをご覧ください。

藤本の色絵には、四季の花々や翡翠、鷺、鶴など生命を謳う花鳥の姿が、瑞々しい色彩と豊かな情感をもって描かれ、春の展覧会に相応しい内容となっております。本展を多くの皆様にお知らせいただき、周知にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

## ■ 展覧会概要 ■

- 展覧会名 「藤本能道 色絵に生きる」展
- 会期 2014年4月12日(土)～6月29日(日)
- 観覧料 一般1,000円／大学生800円／小中高生500円
  
- 主催 公益財団法人菊池美術財団
- 会場 菊池寛実記念 智美術館（〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-1-35 西久保ビル）  
<http://www.musee-tomo.or.jp>
- 開館時間 午前11時から午後6時まで（入館は午後5時30分まで）
- 休館日 毎週月曜日（ただし5月5日は開館）、5月7日（水）
- 展示内容 藤本能道作の色絵陶器、色絵磁器50点余を展示  
※菊池コレクション収蔵の作品より、1970年代、1980年代の色絵の主要作から、最晩年の個展「陶火窯焔（とうかようえん）」（1992年）出品作までを網羅する内容です。

展覧会に関するお問い合わせ 担当：高田（☎03-5733-5131 / FAX03-5733-5132）

## ■ 展覧会内容のご紹介

藤本能道は、近現代の作陶家として大きな足跡を残した富本憲吉（1886～1963）と加藤土師萌（1900～1968）に師事し、その色絵磁器の系譜を継ぎつつも独自の技と作風を追求して 20 世紀の日本陶磁に新たな色絵表現を切り開いた陶芸家です。

当館の創立者・菊池智は作家との親交を深める中で、藤本の色絵の美しさに魅了され、その作品を丹念に辿り、蒐集を続け、色絵の初期から最晩年作までを網羅するコレクションを形成しました。このたびの展覧会では、藤本が色絵磁器に至るまでの活動にも触れながら、菊池コレクションより色絵の代表作を選び、作陶の軌跡と色絵表現の深まりをご覧ください。



1) 色絵木蓮と鶇八角筥 1976 年

## オブジェ陶の時代から、色絵磁器の道へ



オブジェ陶の作品（走泥社時代）

藤本の作陶は、1941 年に東京美術学校（現・東京藝術大学）の図案部を卒業後、同校に併設されたばかりの文部省工芸技術講習所にて加藤土師萌、富本憲吉に師事したところから始まります。二人の師から轆轤や絵付けの手ほどきを受け、特に富本には作家としての志や姿勢を学びました。太平洋戦争をはさみ、戦後は和歌山や京都、鹿児島などで窯業指導に従事、1956 年からは富本の招聘で京都市立芸術大学にて指導にあたりました。現在では色絵磁器の作家として知られる藤本ですが、色絵に専心したのは母校の東京藝術大学に戻り教鞭を取って以降、50 代に入ってからのことです。京都時代には、前衛美術の潮流に連動してオブジェ陶制作を展開した八木一夫ら走泥社の活動に共鳴し、藤本も用の器から離れ造形作品に挑むなど、陶芸の在り方が多様化した時代に、自身の道を模索しました。そうした

50-60 年代の造形的な作品は現在あまり注目されることのない藤本の一側面ですが、**本展では、コレクションより初公開となるオブジェ陶の作品 1 点も展示いたします。**

## 色絵の深化、写実の追求から精神性を湛える最晩年の作品へ

1962 年、東京藝術大学に陶芸講座が整備されるにあたり、藤本は今度は加藤土師萌の招きで助教授に迎えられ、後進の指導にあたります。二人の師から学んだ色絵磁器の技術を、後に藤本は「陶磁技法の楷書」、即ち陶技の基本であると表現していますが、東京に戻った翌年に富本が、68 年には加藤が亡くなるなか、再び制作をオブジェから器の世界へと転換させ、1970 年代に入ると自身の本道に立ち返るかのように色絵磁器制作を本格化させました。菊池が作家と出会ったのはちょうどこの時期のことであり、菊池の藤本能道コレクションは、作家が色絵磁器に軸足を定め展開するのと並走して、形成されたものといえます。



2) 色絵桜とうそ図大皿 1978 年

とくに 1976 年に昭和天皇・皇后両陛下が茨城県へ行幸する際に菊池の依頼で制作された晚餐用



食器一式、230 ピース余りの作品群は、藤本の色絵の仕事を深めるきっかけとなりました。

その後、最晩年の1992年まで、20年あまりの限られた間に藤本は驚くべきスピードで自身の色絵を深化させます。80年代に入ると、藤本の色絵は線描と限られた色で表される従来の文様の



3) 草白釉釉描色絵金彩翡翠翠六角筥 1989年

的な描写から飛躍し、自身の観察に基づく素描から生まれる鳥や草花のモチーフを、絵画の如く写実的に磁器に描き尽す方向へと進みます。そのために釉や絵具の扱い方そのものを刷新し、日本の色絵には従来使われなかった中間色の絵具を積極的に採用、白磁の素地自体に釉薬で色を重ねることで繊細な色彩と柔らかな質感表現を色絵にもたらし「釉描(ゆうびょう)」の技を極めるなど、色絵技術の研究と実践を重ね、1986年には重要無形文化財「色絵磁器」保持者に認定されました。

さらに亡くなる2か月前に開催された最後の個展、「陶火窯焔」展(1992年)にて発表された最晩年作では、辰砂釉の真紅に包まれた蝶や蛾たちが幽玄な世界を創出し、

写実を超えた精神性を湛え圧巻の迫力を放ちます。

菊池コレクションの藤本作品には、作家が色絵磁器に作陶の道を定め、深めた20年余りの歩みが凝縮されています。藤本の色絵の初期から晩年を一望する本展を通じて、藤本能道の色絵の真価をご覧いただければと存じます。



4) 「雪白釉釉描色絵金彩蝶と虫図四角筥」1991年



5) 「霜白釉釉描色絵金彩炎と蛾図扁壺」1991年

## 藤本能道 略歴

- 1919 大蔵省書記官、藤本有隣の次男として東京に生まれる。
- 1922 父の死去により陸軍中将の祖父を父がわりに育つ。
- 1941 東京美術学校工芸科図案部卒業。文部省工芸技術講習所第一部に入所。
- 1942 講習所講師、加藤土師萌に陶芸を学び始める。
- 1944 東京美術学校教授兼同講習所教授となった富本憲吉に師事、その後助手となる。
- 1946 富本の教授辞任に従い、講習所助手を辞任。京都の松風研究所に田村耕一と共に輸出用陶磁器のデザイナーとして入所。京都で富本から再び薫陶を受ける。
- 1947 富本を中心に結成された新匠美術工芸会に参加。
- 1950 鹿児島に移り、薩摩焼などの窯業指導にあたる。
- 1956 京都市立芸術大学専任講師となる。日本陶磁協会賞受賞。
- 1957 走泥社同人となる。翌年、モダンアート協会会員。
- 1962 東京藝術大学助教授就任。
- 1963 制作方向の転換から、走泥社、モダンアート協会を脱退。
- 1966 「第十三回日本伝統工芸展」〈赤絵花壺〉出品。日本工芸会正会員となる。
- 1970 東京藝術大学教授となる。
- 1973 東京都青梅市梅郷に築窯。この頃から安定した紫色を得るためのテストを重ねる(翌年6月に完成)。
- 1974 「陶板陶筥展—花と鳥」開催。最初の磁器だけの展覧会となる。「現代陶芸寛土里」のオープニングとして「藤本能道作陶展」。
- 1976 茨城県植樹際の折の昭和天皇・皇后両陛下の晩餐用食器(「幻の食器」)制作。
- 1981 日本陶磁協会金賞受賞。紺綬褒賞受賞。
- 1985 『藤本能道作品集』(講談社)刊行。東京藝術大学学長に任命される(~90年)。
- 1986 重要無形文化財「色絵磁器」保持者の認定を受ける。
- 1988 この頃、霜白釉、梅白釉を用い始める。
- 1992 3月、陶火窯焔—藤本能道新作展開催(東京・菊池ゲストハウス)。5月16日、呼吸不全のため逝去。

## ■ 展覧会関連行事 詳細は HP に掲載いたします。

### ● 講演会 当館 B1 階展示室ホールにて (観覧料のみ、聴講無料)

「日本色絵史から見た藤本色絵」 5月31日(土) 午後3時より  
講師 伊藤 嘉章 氏 (東京国立博物館学芸研究部長)

### ● 作家に聞く・ギャラリートーク (観覧料のみ、聴講無料)

5月24日(土) 午後3時より

ゲスト 廣瀬 義之 氏 (陶芸家)

藤本能道に師事し、助手として最晩年の作品制作にも参加した作家の廣瀬義之氏をお招きして、展示室を巡りながらお話をお伺いします。

### ● 学芸員による ギャラリートーク (観覧料のみ、聴講無料)

4月19日、26日/5月10日/6月21日、28日 各土曜日・午後2時より

### ● 色絵体験！ワークショップ 当館 B1 階展示室ホールにて

6月7日(土) 午後2時より (事前お申込み制・定員=12名様 ※中学生以下のご参加は保護者同伴)  
講師 前田 正博 氏 (陶芸家)

参加費=3,000円 (材料費・観覧料を含む。当日観覧券をお持ちの場合は2,000円)

東京藝術大学にて陶芸を学んだ色絵磁器の作家、前田正博氏を講師にお迎えし、白磁に色絵具シートを用いてオリジナルの食器を作ります。

### ● 西洋館見学会 (予約制・定員20名様)

5月17日(土)、6月14日(土) いずれも午前11時より

当館敷地内にある西洋館(登録有形文化財)は、大正時代に建てられた後、修復を重ねながらも建具等の室内装飾が丁寧に保全され、今日まで使用されている希少な建物です。通常、非公開の内部を上記の日程で限定公開いたします。

※西洋館のご案内(建築家 篠田義男氏による)、美術館観覧料(学芸員の解説付き)、レストラン ヴォワ・ラクテでのランチを含め、お一人様8,000円です。

## ● 智美術サロン “先ずは中国陶磁を知ることから” (2014年度テーマ)

智美術館が主催する「智美術サロン」は、展覧会の関連行事とは別の通年講座です。その年ごとにテーマを掲げ、専門の方々を講師にお招きして開催いたします。サロン会場は美術館1階のレストラン、ヴォワ・ラクテ。オリジナルデザートをお召し上がりいただきながらゆったりとご聴講いただく講座です。2014年度の第1回は、常盤山文庫上席研究員の佐藤氏に、日本人にとっての最愛の青磁と最高の青磁をテーマにお話いただきます。

第1回 講師 佐藤サアラ氏 (常盤山文庫上席研究員)

6月22日(日) 午後3時より (予約制・定員40名様)

会場 菊池寛実記念 智美術館1階レストラン「ヴォワ・ラクテ」

参加費 3,000円 (デザート・お飲物のサービスを含む)

お申込み・お問合せ 電話 03-5733-5131

■本展覧会について広報媒体へ掲載、取材をいただく場合、本リリースで紹介されている作品画像をデータでお貸し出しいたします。申込書のご希望の図版に☑を記し、用紙を返信のうえ、お問い合わせください。ご紹介いただく記事、番組内容については、情報確認のため校正の段階で事務局までお知らせください。お貸出しする画像データは本展覧会終了をもって使用期限とさせていただきます。作品の画像を1点以上ご掲載の上、本展をご紹介くださる媒体に対し、本展ご招待券を読者プレゼント用に提供いたします。申込書、所定の欄に招待券希望の旨を明記してください。

**掲載に関するお問い合わせ先** 菊池寛実記念 智美術館（担当：高田、島崎）

TEL.03 (5733) 5131 FAX.03 (5733) 5132 <http://www.musee-tomo.or.jp/>

## 掲載・画像貸出申込書

返信先 FAX : 03 - 5733 - 5132

### ●貴社基本情報

会社名:	
担当部署:	担当者名:
住所:	
電話	ファックス:
E-MAIL:	

### ●媒体情報

新聞 雑誌	媒体名:	
	発行日:	発売日:
TV ラジオ	媒体名:	
	放送日:	放送時間:
ネット	URL:	

### ●画像貸出リスト ※キャプションには作者・作品名・制作年・撮影者を必ず入れてください。

希望作品に☑	作品キャプション
<input type="checkbox"/>	1) 色絵木蓮と鶴八角管 1976年 高さ15.0 径30.0cm (撮影:大川裕弘)
<input type="checkbox"/>	2) 色絵桜とうそ図大皿 1978年 高さ6.0 径55.0cm (撮影:大川裕弘)
<input type="checkbox"/>	3) 草白釉釉描色絵金彩翡翠図六角管 1989年 高さ6.5、27.4×30.6cm (撮影:田中良)
<input type="checkbox"/>	4) 雪白釉釉描色絵金彩蝶と虫図四角管 1991年 高さ6.3、16.0×15.9cm (撮影:田中良)
<input type="checkbox"/>	5) 霜白釉釉描色絵金銀彩炎と蛾図扁壺 1991年 高さ26.0、24.8×16.0cm (撮影:田中良)

●読者プレゼント用チケット希望: 5組10名様 10組20名様

## プレスレビューのご案内

展覧会の趣旨、作品解説など、内覧会に先立ちましてプレスの皆様にご説明申し上げます。  
ご多用のなか恐縮に存じますが、どうぞご出席くださいますようお願い申し上げます。

菊池寛実記念 智美術館

プレスレビュー 2014年4月11日(金) 14:00～

14:00～14:45 展示室にて、展覧会のご説明、作品解説を行います。  
展覧会会場内をご撮影いただけます。

14:45～15:00 皆様からのご質問にお答えいたします。

会場： 菊池寛実記念 智美術館 〒105-0001 港区虎ノ門 4-1-35 西久保ビル B1  
・日比谷線・神谷町駅出口 4b より徒歩 6分  
・南北線・六本木一丁目駅改札口より徒歩 8分  
・南北線／銀座線・溜池山王駅出口 13 より徒歩 8分  
・銀座線・虎ノ門駅： 出口 3 より徒歩 10分

ご出席いただける場合は、下記フォームにご記入の上、FAXにて

ご返信下さい。 **返信先 FAX 03-5733-5132**

会社名:	
担当部署、氏名	
住所:	
電話:	FAX:
Email	